

文化祭を終えて

運営委員 田 辺 孝

みんなが知恵を出して創るよるこびの作品がそこにある。これが「文化」だなどひとり言を言いながらそれぞれの場合を見させていただききました。今年の文化祭も各種団体の競演で楽しく味わうことができたのではないでしょうか。

さて文化祭のテーマは「ふるさと再発見」でした。あなたは何を再発見なされたでしょうか。特別展で「今は生活の簡素化が進み省略されていますが古くから行われて来た町内の年中行事料理の内容を展示いたします。」と、行事食と関係諸品展は、テーマにそった「ふるさと再発見」だと思いました。昔の人たちの季節行事に対する奥ゆかしい心をよみがえらしてくれました。先人の心を忘れがちになる私達。それ

ではいけないと見直すこの姿勢こそが頼もしいのではないのでしょうか。

私は美術部を担当して、これまではこれまで。来年度の発見として考えさせられたことは美とは何かです。一番大切に扱っている物、また大事に保存している物の中に美は感じられるもので、これが私の家の自慢ですと誇れる数々の美はあるものです。見かけより尊く感ずる私の美をみんなが出し合えば、ふるさとに新しい波が立っていくのではないのでしょうか。

こうすればかならず成功するという青写真はありません。あるのは、ひとりの自立・自助・自主だけです。また住民団体がその気にならないと何事も成功しません。住民団体参加万歳。

所 感

— 地域の活性化に役立たせたい —

郵便局長 花 田 弘

もともと美的感覚に乏しい私ですから、ものを鑑賞することは苦手です。ましてや批評と云ったたぐいは論外のこと、その器でないことは確かです。そんな訳で展示物や運営がどうのこう

のと云う資格がありませんが私の感じたままを書いて見ました。

まずローカル色豊かで素朴な文化祭です。季節々々の行事の料理の展示は郷愁を感じました。年配の方には当時では大変な御馳走ではなかったでしょうか。現在の恵まれた時代に忘れられようとしているものもあり、次の世代まで伝えたい気がします。

農産物の展示も私の目には良いものばかりと映りましたが、この生産力が地域の活性化に結びつかないものだらうかと思いついていました。色々な難問が内在しており簡単には解決できないのが現実と思います。

もうひとつは、なにか人を集める中心になるものが、どことなく足りない感じがします。しかし、それはなにかと問われますと答えようがないので無責任な発言です。

最後に町内の各団体を中心にして皆様方の町を活性化したい意気込みを感じた文化祭でした。

12月少年健全育成指標

明るい家庭に良い子は育つ

自十二月四日
至十二月十日

人権週間を迎えて

—ニューメディア時代に—

著しい速度で進む社会、今日未だに解決出来ないのが同和問題である。

「社会、学校、両者連繫して其の解決を目指そう」と声を大にして叫ばれている割合には順応が遅れている。

無知・無関心。敬遠・頑固・前途は多難である。初対面の人々の多くは「寝た子を起すな」「私は差別などしていない」「今更学習など必要ないのでは」「知らないで済むもの迄が必要以上に知る事になる」と言われる。

果してそうであろうか。知らないでいたばかりに不用意な発言をして相手に大きな痛みを与える事が余りにも多い。又、結婚問題ともなると話は別だと言われる。

世間態とか、家族・親族の間には古くから培われた誤りが根深く伝承されている様だ。

差別の本質はこのあたりにある。そ

の起源。歴史を辿って見ると、封建制度の最も強い江戸時代の施政に端を発している。一部の特権階級がすべてを独占支配して、士・農・工・商・他階級制度を造り、これら身分の低い人々は、およそ非人間的な屈従の生活を強いられた幕府の絶体的権力と政治的意図によって約三百年の長きに亘って続いた。未だその殻をぬけ切らぬのが一つの原因ともなっている。

戦後の民主主義は憲法により私達に最大限の保証をした筈、又個人の権利はすべて優先する現代に私達は生きていく筈である。

いわれなき差別、与えられた心の痛み、考えて見たい事の一つである。

(公民館より)

歳末警戒

—交通事故と押売りに注意—

大代駐在所 足立文吉

例年ながら、いつの間にか年の瀬を迎え十二月後半にもなりますと、あれもこれも今年中にやっておかなければと、気忙しくなります。今から年末の準備にとりかかり、今年こそはゆっく

りと正月を迎えたいものです。

心に余裕のある正月を迎える準備こそ、歳末の防犯の心掛けです。そして交通事故にもあわない秘けつなのです。

◇交通事故防止

一、ゆとりのある運転をしましょう。

明日の準備は今日の内に、いつもの時間より十分早めに出発して防衛運転に心掛ける。

二、見通しの悪いところでは必ず減速しましょう。

カーブなどのずつと手前で速度をおとし、前方を確かめて進行する。

三、飲酒運転は絶対やめましょう。

◇歳末防犯について

例年、押売りが多いの商人が家庭を訪れています。必要のないものは、最初にきっぱり断ります。いつまでも帰って呉れない時は「警察に電話します」と対抗すれば、間違いなく退散します。警察官は、その為にも出動体制を整えています。



郷土史三題

島根女短大教授 藤岡大拙

△講演会から▽

島根を大きく三つに分けて、出雲・石見・隠岐文化がある。

△その一、出雲について▽

古代出雲は神話の国、八岐の蛇ヤマトオホスネを退治したと云われる須佐の男命、粗暴な性格に困り果て天の岩戸に隠れられたと言タカう天照大御神、その扉を開いたと言タカわれる手力の男命、兎とわにぎめにまつわる稲佐の浜、それを助けた大國主命は出雲大社の祭神となっている。出雲の伝説は限りなくある。

にもかかわらず裏付けとなる文献や古文書など確かな史実がない。おそらく造られた伝説で出雲の歴史は浅いと、全国の考古学者は揃って主張し出雲人をして落胆せしめていた折も折、荒神谷遺跡から出土した多数の銅鐸・銅剣の類い、それは一体何を物語るのか。出雲は一躍脚光を浴びる結果となり、出雲人を沸き上がらしめた。

△その二、石見地方▽

全国的にもその名を知られる郷土の

名士雪舟、益田に現存する医光寺と庭園、そして柿本人麿、共に石見の国の歴史に代表的な人物であるが、その終焉ユヅルの地が全く不明である。後者は石碑や祀ヒコってある祠はあるが、何処に住んでいたのか、何処で亡き人となったのか分らないのが不思議とされている。

△その三、隠岐地方▽

古代の歴史の中でこの島に流刑となつた人は可成りある。特に後醍醐天皇も其の一人とされている事は聞いているが、上陸された港或いは生涯を送られた地名が記録の上に残っていないのが、これ又不思議の一つである。

(以下略)

おしらせ

◇ご結婚おめでとう

ございます!!

下市 田辺正治君

下市 早苗さん

下市 田辺繁徳君

下市 俊江さん

下市 広原一郎君 (大田町)

坂井純子さん

―都市交流―

◇愛知県豊田市にお住いの山根哲様、(上市出身)より郵送により金一封を御寄贈頂きました。

◇東京石見高山会、現在春日部市にお住いの松野広様(下市出身)より木村酒店を通して沢山の本(新冊約七十冊)を御寄贈頂きました。

図書室にあります。是非お立寄り下さい。

以上御二方に心から御礼を申し上げます。

◇新年挨拶交換会を恒例により一月一日午前十時より行います。多数御参加下さい。昨年は大変盛会でした。準備の都合もありますので二十七日迄にお申込み下さい。(会費二百円)

一日時 一月一日(午前十時)

場所 集会室

会費 二〇〇円

